

東京都地方独立行政法人評価委員会
平成26年度第4回試験研究分科会 議事概要

- 1 日 時：平成26年11月28日(金)9時30分から11時30分まで
- 2 場 所：都庁第一本庁舎33階南側 特別会議室S1
- 3 出席者：三上分科会長、青山委員、北村委員、藤竿委員、森委員（五十音順）
- 4 議 題：
 - (1) 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター第三期中期目標の策定に資する提言の検討について
 - (2) その他
- 5 議事概要：
 - (1) 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター第三期中期目標の策定に資する提言の検討について
事務局より、『東京の産業と雇用就業2014』等を用いて、都内中小企業を取り巻く状況について説明。その後、資料1及び資料2により、都が策定する第三期中期目標への提言の検討を開始。

【意見の概要】

- 製造業のグローバル化に対応する技術支援体制をとっていく必要がある。
- 少子高齢化に伴い、医療・健康などのヘルスケア分野に対する技術支援や企業の後継者育成が課題となってくる。
- 今後は、若手人材の確保・育成が重要となる。
- 中小企業の海外展開支援については、むやみに促進する方向にすべきではない部分もある。今後の課題として、どの国に、どういう専門分野で、将来どのように展開していくのが課題となる。
- オリンピック・パラリンピックをターゲットに、中小企業も大きな発展のチャンスがある。どう対応していくか、検討する必要がある。
- 製造業の創業・ベンチャーというのは、設備投資も大きくかかるため、なかなか難しい。ある程度の強さのある中小企業をさらに強くする、ということも一つの考え方としてあるのではないか。そのため、各社の技術の延長で、受注の拡大や付加価値の向上のための支援が求められる。その際には、新たな技術分野・機

械への対応が必要。

- 技術面から経営者にアドバイスをし、経営者が認識していない自社の強みへのアドバイスができると、産業の活性化にもつながる。
- 世界のオンリーワン、トップを狙える分野への支援を強化すべき。
- 製造業だけでなく、サービス産業への支援も検討に入れてはどうか。
- 世界的にも注目されているアディティブ・マニュファクチャリング（3Dプリンター）による先進的な支援を、今後も強化して欲しい。新技術、新材料など、様々なものに対応して欲しい。
- 中小企業のための人材の育成は重要だが、人材の確保も重要である。産技研が、中小企業の人材の確保にどこまで支援できるかわからないが、中小企業に入っても、産技研を活用することで、ダイナミックな研究開発にも取り組める、というのもPRポイントになるのではないかと。また、中小企業のエンジニアとともに研究開発を行っていることも、魅力発信の一つになるのではないかと。
- 第三期では、評価指標の再検討を行うべきである。現行が悪いのではないが、定数的な指標と評価だけでは、真に中小企業の役に立っているかはわからない。今後、第三期の検討と合わせて、検討する必要がある。また、定数的な指標を設ける際には、その数字の有効性を議論する必要がある。
- 資料1の3つの方向性は、今後、具体的な文言、順番等は調整していくとして、概ねこの方向性でよいと思われる。ただ、2番目の柱は「中小企業」ということを強調した方がよいと思う。
- 航空機やロボットのような成長産業、少子高齢化の中でのヘルスケアといった社会問題は、企業にとってのビジネスチャンスともいえる。こうしたところを押さえた支援を展開していく必要がある。
- とにかく、情報発信を強化していただきたい。産技研を知らない、名前は知っているけど利用したことがない、というのは、非常にもったいない。高度な機械設備、人員を抱えているので、PRを強化していただきたい。関係機関と連携し、利用の掘り起こしを行ってほしい。産技研を利用して成果を上げた中小企業と一緒にPRできると、成果が具体的に見えるので効果的ではないかと。
- 研究と技術支援の時間配分について、どちらに偏りすぎてもいけない。基本的スタンスを考え、しっかりと貢献して欲しい。
- 今後も、消費者の安全安心につながるような、製品の安全性評価などの機能は、

需要が高いので、強化して欲しい。

(2) その他

事務局から今後の日程等について説明（資料3）

以上